

# 佐藤小夜子DANCE LABORATORY2016公演

「そこ」を右に曲がると：いや左かもしれない」

2016年3月12日(土)「2回公演」

名古屋市東文化小劇場(名古屋市東区)

吉田悠樹彦(舞踊批評家)

シユールな出会いや日常の中の思  
いがけないものをテーマにしたコン  
テンポラリーダンスが上演された。  
舞台美術・衣裳を駆使し優れた作品  
である。

舞台に一列、四角い白い枠(美術)  
福永朝子・人形劇団むすび座)を  
持ったダンサーたちが登場する。武  
田晴子による衣裳は白と黒のストラ  
ップだ。観る者の記憶に溶け込みや

すいし、表現主義的にも映る。超現  
実的風景の中を一列に並び動き出す

が、それぞれ見慣れた日常を異化さ  
せていく。四角い枠を棒のようにな  
形したり、枠のよつにちぐはぐに積  
み上げたりする。古井慎也のコミッ  
クな演技が目を引く。寓意のよくな  
コミックな展開、人生の名場面達を  
象徴するような場面が舞台に広がり

おののが物体の様になつたり、ダ  
ントンダンサーの関口淳子(「焼け跡  
の力」)、伊豫田静弘著の名演技も見  
逃せない。関口は表情の変化とコキ  
ヤブリーリーは近年でも群を抜くもので  
大きな見所だ。震災後の不安定な社会  
に対するユーモラスな表現が、佐藤は良  
質を追及する才能だ。この

アや枠の中でシリアスにもがく舞踊  
万華鏡のように繰り広げられる。や  
手達がみえる。若手の大坪奈央、河  
村姫夏、中陽美も活躍をみせた。ラ  
ストは「私の青空」を唄う榎本健一  
現は物語を加味していく。関山によ  
るキャラクターと美術を手にしたダ  
ントンダンサーが歩んでいく。中京の大御所から  
新入までこの地を生きるダンサーの  
田ますみ、中島由紀子、高野由美子、表情を楽しむことが出来た。

本作は東文化小劇場優秀舞台作品  
に選ばれた。中京には伊豫田静弘著  
る「焼け跡の力」(世界劇場会議名古屋、2007)にみる洋  
舞の発展がある。この本には関山の  
歩みも刻まれている。続く新時代の  
地の芸術に新風を起している。



撮影:杉原一馬(和光写真)